

春爛漫の言葉の通り、木々に緑が映え、様々な花が咲き、光溢れる季節を迎えました。このすべての命が輝く今日の佳き日に、第 61 回国學院大學栃木高等学校入学式を挙げていただくことは、大きな喜びであります。

新入生 447 名の皆さん、入学おめでとうございます。今日皆さんが入学式を迎えられたのは、皆さん一人ひとりの努力の結果ですが、それと共に多くの方々のお陰によるものでもあります。このことをしっかりと胸に刻み、「感謝の心」を持って高校生活を踏み出して下さい。

さて、皆さんは 9 年間の義務教育を終え、自らの意志で本校を選びました。その本校ですが、まずは私学であるということをご自覚して下さい。私学には建学の精神があります。本校は付属校として國學院大學の建学の精神を自らの建学の精神として掲げてきました。國學院大學の前身である皇典講究所は明治十五年に設立されましたが、開校式に臨まれた総裁有栖川宮幟仁親王の告諭において述べられた「国体の講明」、「徳性の涵養」、つまり「日本の伝統や文化を深く学び、日本人としての良識や道徳心を持った日本人になる」ことが建学の精神となっています。それをもとに表したものが、「たくましく 直く 明るく さわやかに」の校訓です。本校はこの校訓にある人間像を理想として教育していきます。國學院栃木での学校生活をスタートさせたこの時にこそ、しっかりと校訓を胸に刻み、3 年間の学園生活を過ごして行って下さい。

では、これから皆さんが学園生活を送る上で、心に留めておいてほしいことをいくつか述べたいと思います。

まずは、「夢や目標に向かって全力で努力すること」です。将来の夢や目標は、今を生きる大きな推進力となり、夢を実現しようとする努力が人生を創っていくものです。また、あらゆる場面でいつでも登場する「努力」の言葉は、やはり高校生活において最も忘れてはならない言葉です。その「努力」が皆さんの可能性を広げます。現代は、若者が夢や希望を抱きにくい、閉塞感のぬぐえない時代だとする見方もあります。しかし、決して、そのようなことはありません。皆さんには限りない可能性があり、私たちがそれを大いに後押しすることを約束します。そして、学習、学校行事、部活動、進路目標、どのようなことであれ目標に向かって全力で努力する誠実な姿は、自分自身を高めるだけでなく、共に励まし高め合う仲間、一生の友を作ることにもつながります。

加えて、自分自身の進路や将来や人生のことはもちろんですが、「この世の中をもっと良くするために、自分に何ができるか、何をしたらよいか」ということを考えることも大切です。世界中の困っている全ての人に対してはできなくても、自分の目の前にいる人、自分の身近にいる人に対してならば、「何か」できるのかもしれない。その「何か」が、すぐに世界貢献につながらなくても、人を笑顔にすることや、人々を和ませることなどが、ほんの少しずつでも世界をより良い方向に向かわせる第一歩となります。ここで一通の手紙を紹介いたします。「私は栃木市で自動車整備をしている者です。先日、台風 19 号の水害により被災されたお客さまの車両を引き上げる作業を行っていました。しかし、状況が悪く、2 名の社

員ではどうにも動かせず困っていたところ、被災した家屋の清掃ボランティアで作業中だったラグビー部5名の方々に車両の手押し作業を手伝っていただき、レッカー車まで運ぶことができました。その場では名前も聞かず、お礼を述べただけで別れてしまいましたので、改めて感謝の気持ちを伝えたいと思い、手紙を書かせていただきました」。このように台風19号で被災した時も、たくさんの人たちがボランティアに携わり、國學院栃木の高校生たちも市内清掃や募金を行いました。そのため、このようなお礼の手紙が何通も寄せられたり、何人もの方にお礼の電話をいただいたのです。自分は何ができるのか、何をすべきなのか、これからの生涯、常に自分自身で考えて、意識して行動して下さい。一人ひとりの意識と行動が自分の未来へとつながっているのです。そのことが、最終的には皆さんが「何のために生きるのか」という問いの答えとなるでしょう。

ところで、ちょうど1年前、皆さんの先輩の一人が、入学時の作文にこのように書いています。「入学を決めた理由ですが、その1つに学校見学の際に先輩方が本当に輝いて見えたということがあります。特に印象に残っているのは野球部の先輩方が駐車場に誘導したり、学校の案内を率先して行っている献身的な姿でした。さらには、すれ違うすべての先輩方が『こんにちは』とか『おはようございます』という挨拶を笑顔でしてくれたことを、とても嬉しく感じました。その姿には親も感心し、自分自身もこうありたいと思いました。これからの時代、科学技術の進歩の発展により、どれだけ便利な時代になろうとも、やはり人間と人間のコミュニケーションというものは絶対に大切なものであり続けると思います。そのためにも最も大切なものは挨拶です。自分自身しっかりと挨拶ができる人間になると共に、併せて思いやりの心も育てていきたいと思います」。

どうでしょうか、これが國學院大學栃木高等学校の生徒、いわゆる國栃生の一つの姿です。私たちの学校では、早朝や放課後遅くまで、教室や教育センターなどで集中して勉強する姿、職員室で積極的に質問する姿、部活動でも黙々と必死になって練習する姿をよく見かけます。それらは確かに本校が目指す生徒像です。しかし、学習も部活動も大切ですが、それらは「人として当たり前のことを当たり前でできる」ことが土台にあってこそのものであると、私は機会がある度に生徒たちに話しています。人と会ったら必ず挨拶をする、困っている人がいたら自然に手を貸す、相手のことを思いやる、何事に対しても全力で取り組むなど、そうした生徒であることが國栃生としてのプライドなのです。そのプライドいわゆる「國栃プライド」は自分自身と自分が学ぶ学校を愛すること、自分が行っていることに誇りを持つこと、お互いに尊敬し合うという精神に基づいた言葉です。それが最終的に、未来を生きる皆さんのどのような状況であろうと通用する力、揺るぎない力となるはずで

現在、世界中の実に多くの人々が、ウイルス感染という被害に遭い、皆さんも登校どころか外出も制限された日々を送ってきました。これからも最新の注意を払った生活を送る必要があります、大変な思いをしていると思います。世の中には、このように自分ではどうすることも出来ないことにぶつかることもあります。そのような時は、じっと耐えて出口に光が見えるまで待つしかありません。そして今、出来ることを考え、次の段階への準備をしっかり

行い、来るべき時に備えることです。人は楽しい時や嬉しい時より、むしろ苦しい時や辛い時の踏ん張りにこそ、その真価が表れます。耐える力、踏ん張る力、自分を律する力を発揮して下さい。人類は叡智と強さと団結で、困難を乗り越えてきた歴史があることを忘れてはなりません。皆さんは、中庭にある初代学校長佐々木周二先生の銅像を見たでしょうか。その佐々木先生のお言葉です。「人は誰でも困難を乗り越えて今日まで生きてきています。そして困難を乗り越える度に人は強くなっていきます。それはちょうど人間を強くするために困難があるようなものです。『ふんばる力』は、そういった困難を打ち砕き克服していく原動力になります」。新入生の皆さんが、「國學院栃木」の生徒として自信と誇りを持ち、一人ひとりの夢に向かって、自ら磨き鍛え、成長していくことができるよう、皆さんの努力と活躍に期待して式辞といたします。

令和二年四月六日
國學院大學栃木高等学校
校長 青木一男